別紙様式1

令和5年度　学校評価表

（ 中間・(最終) ）　　学校名　三原市立沼北小学校　　校番（ 11 ）

a 学校教育目標	かしこく やさしく　たくましく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　児童の地域への愛着を育て、生きる力の基礎を育成する 【ビジョン】（自校の将来像）　児童が自分に自信を持ち、地域・保護者から信頼される学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力の育成	「見方・考え方」を働かせ、探求的に学習する力を育てる	〇基礎的・基本的な知識・技能の定着	〇NRT・全国学テの課題を基にした授業改善 〇低学力層（50点以下）を対象とした学力補充・帯タイムの充実と情報共有	①単元テスト（国・算・理）平均点 ②国語科学期末テスト（初見問題）において全国平均以上の児童の割合 ③単元末再テストで正答率70%以上	①80% ②70% ③100%	①86.1% ②69.1% ③59.6%	①87.4% ②78.1% ③80.5%	100.4%	B	①児童の学力向上に組織的に取り組み、学力の定着を図った。国語・理科については達成値は向上したものの、算数においては平均点の低下が見られる。 ②校内の教育研究に組織的に取り組み、ファシリテートを意識して国語科における見方・考え方を育成することができた。一方で、漢字や語彙に関する課題がある。 ③低学力層への学力補充を少人数制で行った結果、再テストに該当する児童が減少し、目標を達成できた児童も増加した。	①来年度も引き続き学級の実態や課題に合わせた帯タイムを進めていく。校内での取組を精選し、より確かな学力を育成する。 ②引き続き校内での教育研究を組織的に進めていく。学力テスト等でも課題として挙げられる漢字や語彙については家庭学習や帯タイムなどICT機器を積極的に活用しながらで学力補充を行う。 ③引き続き児童の実態に即した授業づくりを行う。必要に応じて管理職等とも連携し、少人数による学力補充を行う。				・低学力層へ学力向上をお願いしたい。 ・低学力層への取組では、時間の確保が大変ですが、一人も取りこぼさないきめ細やかな指導を期待する。 ・読書活動の充実について、校区内で不読率を下げる活動が必要である。 ・児童一人一人を大切にし、成長を促す取組を行っている。 ・ICTを活用するとき、話を聞くとき、文章を書く時の区別をつけることが必要だと考える。インターネット環境と上手に付き合う方法について指導していただきたい。
		〇主体的・協働的な学びによる深い学びの実現	〇「探究的・協働的で深い学び」を導く「問い」を追求し、「見方・考え方」を働かせる授業改善を進める。 〇授業をファシリテートする力を高め、思考につながるICT端末を効果的に活用し、「深い学び」や「個別最適な学び」を促す授業つくりを進める。	①単元末児童アンケート肯定的評価の割合 ②授業参観者アンケート肯定的評価の割合	①85% ②85%	①91.8% ②85.4%	①96.9% ②93.8%	112.0%	A	①国語科の単元終了時に4つの項目についてのアンケートを全児童に対して実施し、身に付けさせたい見方・考え方を児童と共有した。授業者が問いとファシリテートをこれまで以上に意識することで、授業改善意識が高まった。さらに、学期ごとに研究部でアンケート内容を検討し、教材研究における視点の焦点化を図った。 ②学期ごとの研究授業から、具体的なファシリテートの姿を整理し、その効果を共有するとともに各学級で実践するための手立てを協議した。研究主任が出した研究だよりを活用して更なる授業改善・手立ての蓄積を行った。	①単元の初めに単元終了時に目指す姿を児童と共有することで、児童が見通しを持って活動に取り組むことができるようにする。 ②来年度2学期に行われるブロック公開研究会に向け、今年度の成果を再確認する。特にファシリテートの具体的な姿と児童の対話を深めるための発問・切り返しを整理する。				
豊かな心の育成	自らに自信をもち、積極的にチャレンジする気持ち、また他者と関わり合いながら、共に伸びようとする意欲を高める	〇自分のよさに気づき新たな目標に向かう児童、他者と関わり合いながら共に伸びる児童の育成	〇挨拶を核にした「沼北5」の徹底を図り、「自信（チャレンジする心）」と「かかわり合う力」を更に高める取組を進める。	①挨拶についての児童アンケート肯定的評価の割合 ②地域の方への挨拶についてのアンケート肯定的評価の割合	①85% ②85%	①91.5% ②94.9%	①92.6% ②96.7%	111.3%	A	①挨拶の充実を図ることで自信とかかわり合う力の向上を図った。学期ごとに、挨拶が良いと思った友達へのコメントを書いたり放送で流したりすることで、友達の良いところを探そうとする姿や、より気持ちの良いあいさつの仕方を考えようとする姿が見られた。また、友達から認められることを通して挨拶に自信を持ったり関わろうとしたりする姿が見られた。 ②地域の方への挨拶についてのアンケートにおいても、肯定的な評価が10月の評価より向上しており、学校の中だけでなく校外でも児童の挨拶がよりよくなっているということが伺えた。	①来年度も学期ごとに自己評価、他者評価の場を設け、振り返ることができるようにする。また、放送や掲示、表彰で児童に還元することで「自信」と「かかわり合う力」を育てる。 ②引き続き地域の方にも協力をいただき、客観的な評価をいただくことで、挨拶の質の改善を図る。				・積極的に物事にチャレンジできるように、これからも工夫・指導をお願いします。 ・学校を訪問した際に、子どもたちの元気なあいさつの声にうれしく感じています。 ・全体的にあいさつがよくできていて、学校の取組も理解できた。あいさつの大切さを継続的に指導していただきたい。 ・自分で考えて行動できるように学校生活の中で学んでいけるような取組をしていただきたい。
		〇地域の文化や伝統に誇りをもち、感謝する心の育成	〇地域の文化や伝統に誇りをもち、感謝する心の育成	①地域連携・地域ゲストティーチャーの導入回数各学年、年間3回以上 ②児童アンケート「地域が好き」「地域のことを知っている」肯定的評価の割合	①100% ②85%	①52.4% ②94.9%	①100% ②96%	106.5%	A	①ゲストティーチャーの招聘を行うことで、地域の人やよさに触れることができた。また、ゲストティーチャーの方へお礼の手紙を書くなどの活動を仕組むことで、地域の方へ学んだことを伝えたり、関わりをもったりすることができた。（100%：3月末） ②児童に行ったアンケートでは、96%の児童が肯定的な回答をしており、発達段階に合わせた地域との関わりから文化や伝統に誇りをもち、感謝する心の育成を図ることができた。	①引き続き、ゲストティーチャーの導入をすることで地域の人やよさを知り、「地域が好き」な児童を育む。また、発達段階に応じて事前に依頼の手紙を書いたり、事後に学んだことを地域にお返ししたりする活動を仕組み、学校と地域がかかわり合う計画を立てていく。 ②児童アンケートでは、肯定的な回答の児童が多く、目標値を再検討していく。				
健やかな体の育成	運動に親しみ、健康の保持増進に努める主体的な態度を養う	〇運動に親しみ、体力を高めようとする態度の育成	〇運動の楽しさを知り、自ら進んで運動に親しむ児童を育成する取組を継続する。特に「走力」を高める。ACP（アクティブチャイルドプログラム）を取り入れる。	①「走のACP」実施率 ②50m走の記録5月よりアップした児童割合 ③児童アンケート「運動することが好き」肯定的評価の割合	①80% ②85% ③85%	①35% ②53% ③84.7%	①68.4% ②73% ③83%	87.8%	B	①走のACPの実施をすることで、体育の時間を楽しみにしている児童もいた。体育参観日前や水泳、持久走大会の時期には走のACPの実施が難しい実態もあった。 ②1学期から計画的に朝ランニングを行ったこと、持久走大会への意欲づけ等、走力向上の成果として現れた。年間を通して「走」の運動に取り組むことで、50m走の記録が向上できた。 ③肯定的に答えた児童の割合が83%に留まり、9月より低くなったが、「ぜんぜん思わない」と回答した児童は8.5ポイントから6.9ポイントへ下がっている。	①跳び箱やマット運動、ネット型の球技など、準備や設営に時間がかかる単元においては本時の内容に即した準備運動的なACPを取り入れる。 ②体力テストの結果から本校では「長座体前屈」「20mシャトルラン」に課題があったため、年間を通した取り組みを行うことで、体力の向上を図る。 ③記録がよくなったことやできるようになったことを振り返る場を設けることで喜びを感じさせたい。				・いろいろな運動を体験して、各自の体力向上ができるうように指導していてください。 ・個々の記録アップには、運動することが好きになり、楽しむことが一番です。楽しさのある取組をお願いします。 ・体力の向上に向け、運動が好きになる児童を育てるとともに、けがの防止に対する保護者等の意識を高めることも必要だと考える。
		〇自らの健康を保持・増進しようとする態度の育成	〇健やかな体部を中心にして健康(生活習慣等)に関する日常生活の中での恒常的な取組を推進し、生活習慣アンケートや生活ふり返り週間を実施する。 〇西部共同調理場や学校栄養士と連携し健康を保持増進しようとする態度を育てる。	①毎日2回以上歯磨きをしている児童の割合 ②目標時刻までに就寝ができている児童の割合	①85% ②85%	①85.7% ②73.7%	①92.9% ②76.0%	99.0%	B	①歯みがきについては、学校歯科医によるブラッシング指導を1・3・5年生対象に実施したり、歯みがき週間を実施することで歯みがきに対する意識が向上した。 ②「生活ふりかえりカード」や「生活ふりかえりアンケート」で、児童の生活習慣の実態調査を実施し、保護者と連携しながら児童への声掛けや生活習慣に関する保健指導を行った。	①来年度も学校歯科医や栄養教諭と連携を行い、ブラッシング指導や食育指導の時間を設け,健康を保持増進しようとする態度を育てる。 ②今後も，生活習慣に関する実態調査等を行うとともに，児童自身が生活習慣と健康は大きく関係していることを理解し、特に就寝時間について指導や声掛けを行う。				
信頼される学校	家庭・地域との連携を大切にし、安心・安全な学校、信頼される学校を創造する	〇地域と学校の連携・協働、そして地域の力を活用した学びの推進	〇地域・保護者との連携を深め、協力体制を構築する。 〇児童の成長や教育活動の様子を積極的に地域・保護者に伝え、教育活動への理解を得る。	①学校評議員・関係者評価委員アンケート：「よい学校にしようと頑張っている」、「地域を愛する子どもを育成しようとしている」、「地域と一体となった教育活動を進めている」 ②保護者アンケート「学校の様子が学校・学級通信やトピックスによってよく分かる。」肯定的評価	①88% ②92%	①100% ②95.1%	①100% ②96.6%	109.3%	A	①学校評議員・学校関係者評価委員さんには、参観日や各種行事等への参加の際に、学校・教職員の取組を見ていただいたいた。アンケートでは、特に高い評価をいただいた。 ②多くの保護者は肯定的な評価であり、目標は達成できた。昨年度より、「特にそう思う」という4段階の最も高い評価の割合が大幅に増えた。また、中間報告の際のマイナス回答の保護者に説明を行い、プラス評価をいただいている。	①児童の実態や課題を明確にし、課題に向けた教育活動の充実を図るとともに、引き続き地域と一体となる教育活動を進める。 ②今回のマイナス回答は別の保護者のため、「すぐーる」の活用等をさらに進めていく。「すぐーる」によるトピックス（学校の様子）を学校だよりとは別に、月2回程度は配信する。				・コロナ感染症が第5類に移行したのち、参観日に保護者以外の方も参加できるように計画しておられ、とても良いと思います。 ・先生一人一人が無理しすぎていないか、不安はないか、お互いのチェック体制が大事です。組織的対応をお願いします。 ・保護者アンケートでは、満足度が高く評価されている。教職員の取組を継続してください。
		〇業務改善を進め、協働して課題解決に向かう教職員集団の確立	〇校務分掌を改編し教職員の協働体制を更に確立するとともに、教頭を中心に業務改善を進め、「限られた時間の有効活用」を意識した、柔軟な働き方改革を充実させ、信頼される学校を創造する。	〇職員の1か月の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間 平均45時間以内	100%	100%	90.1%	90.1%	B	〇教頭の時間外勤務が9月と10月に45時間を超えている。PTA会議等が続いたためもあるが、他の職員は45時間以内に退校できている。	〇毎週時間外勤務を確認し、なるべく45時間を超えないように調整を行う。 〇働き方改革を推進し、教職員のワークライフバランスを保つため、各学年の標準授業時数を考慮し、5時間授業の日を取り入れる。				

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。